

令和元年度第4回小学校ゼミナール議事録

2019年度12月26日(木)

於：広島大学附属小学校

司会者・発表者：長江優衣（広島大学教育学研究科院生）、八島恵美・結城和夏・中林玲奈（広島大学附属小学校教諭）

参加者：影山和也（広島大学准教授）、八島恵美（広島大学附属小学校教諭）他10名

1. 協議の概要

今回は、2月7,8日に予定されている初等教育全国協議会において実施される授業の提案について協議が行われた。まず全体で協議会において行われる算数科の研究授業の内容の紹介が行われた。その後、授業者の八島先生・結城先生・中林先生のそれぞれのグループに分かれて各先生の授業案について検討が行われた。

2. 授業構想の検討

八島先生のグループでは「比例を使って—SDGsの教材を作ろう—」という6年生に向けた授業の検討が行われた。この授業は6年生が1・2年生に対して、比例の関係、比や割合といった考えを使ってSDGsの教材を作るという授業であり、来年度からSDGsを視点とした研究が本格的に実施されることを企図したものである。教材づくりを通して数学的な表現のよさや比の考え方の有用性を感得できるようにする必要があることが共有された。

結城先生のグループでは「三角形と四角形」という2年生に向けた授業の検討が行われた。この授業は、一般的な三角形、四角形から直角三角形、長方形、正方形を抽出するために必要な要素をプログラミング的思考を用いて考えるという活動を通して、それぞれの図形の性質を理解することを目的として提案された。それぞれの図形に必要な要素を自然に引き出すためにはどのような活動が効果的か、プログラミング的思考をどのように絡めるのかといったことが中心に協議された。その中で、図形を言葉だけで相手に説明することによってその図形に必要な要素に気づかせるという活動が提案された。

中林先生のグループでは1年生の「大きなかず」单元における授業が提案された。この授業は100より大きい数の表し方に焦点を当てた授業であり、数表を用いて100までの表記の仕組みから100より大きい数(120程度まで)の表記の仕組みを理解させるという内容であった。自然数の系列とは、初めがあり次々と数珠つなぎになった構造であることを確認がなされた。また、初めから数表を与えてしまうと10毎に区切る必要性を生徒が感じるができないので、自然数の系列を10毎にまとまりを作る活動(10列の数表を作らせる活動)を児童に行わせることが有効であるという意見が出された。

(文責：吉岡国晃)